

## 三菱ガス化学株式会社「2024年度第3四半期決算説明会」質疑応答要旨

日時：2025年2月13日(木) 16:30～17:30(ウェビナー/電話会議)

説明者：取締役 常務執行役員 経営企画管掌、CSR・IR 担当 / 北川 元康

(本資料に関する注意事項)

本資料については、上記説明会での質疑応答について、加筆・修正を加え、当社の判断で簡潔に纏めたものであることをご了承ください。また、説明会資料同様、記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、説明会当日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

**Q1:** 半導体関連製品である EL 薬品及び BT 材料について、3Q 及び 4Q の状況を教えて欲しい。EL 薬品は回復が鈍いとのコメントがあったが、世界展開する御社の状況を改めて教えて欲しい。また BT 材料は子会社で顧客対応によるコスト増が発生とのことだが、一過性なのか何か構造的に収益が落ちてしまうのか。OPE®についても 3Q、4Q 及び来期の状況をどのように見ているのかについて教えて欲しい。

**A1:** まず当社の半導体関連事業の全体感をご説明したい。AI 関連需要としては、EL 薬品のハイブリッドケミカル、OPE®などの販売で恩恵を享受しているが、それ以外の部分は前回予想には達しなかったということになる。超純過酸化水素等の状況は前回とあまり変わらず、全体として底は打ったと捉えているが、需要回復は緩慢で、地域ごとに濃淡がある。BT 材料は、スマートフォンを始めモバイル向けが中心であり、AI 関連需要の取り込みはまだこれからになる。BT 材料のコスト増とは、品質強化対応によるものである。顧客対応で問題が発生し対応強化による歩留まりの悪化とコスト増が発生している。これは来期には徐々に解消していくとみている。OPE®は AI サーバーの伸びを確実に捉えており、順調に成長している。利益ベースでも前期比では 100 数十パーセントの伸びになると見ている。4Q も 3Q 同様に堅調で、既存のマザーボード分野のみならず ASIC やスイッチなど様々な分野に用途の裾野が広がっている。来期も顧客の要求に確り対応していくための供給体制を着実に整備していく。

**Q2:** EL 薬品は半導体薬液として全般的に使用されているので、AI 向けは良いが、それ以外の需要回復が遅れ下方修正になった、という認識で良いか。また 2025 年度は回復するという見立てが良いか。

**A2:** 当社がストレートケミカルと呼ぶ超純過酸化水素や超純アンモニア水のようなウェハ洗浄薬液については、販売エクスポージャーの高い北米顧客が不調である一方、一人勝ちの台湾顧客向けについては競合からのシェアを十分に取り切れていないという状況。一方で韓国の拠点は高機能メモリ向けの薬液が好調で他拠点の収益を補ってくれている。ここは来期も今期並みは期待できる。

**Q3:** 韓国が好調で、ここが来期も引っ張ってくれるという認識か。

**A3:** ご指摘の通り高機能メモリ向けなどは来期も引き続き良いだろう。但し足下、それ以外の用途は韓国も他地域と同じような状況で、超純過酸化水素は期待したほどの数量にはなっていないのが実情。

**Q4:** (全社)3Q 実績について、2Q と比較してどうだったか。また 3Q で特殊要因があれば整理して欲しい。

**A4:** 旧セグメント順にご説明する。まず天然ガス系化学品セグメントについて、3Q は 2Q 比で大きく減益となったが、従前ご案内の通り定修差(修繕費)が大きく、QoQ の差の半分以上を占めている。次に差が大きいのがエネルギー資源・環境関連で、事業の状況自体はヨウ素も含め堅調だが、上期に一部の販売が集中したため 3Q はその反動があった。芳香族化学品セグメントは、芳香族アルデヒドと MXDA の販売が増加し増益となった。汎用化学品である高純度イソフタル酸のスプレッドも改善している。機能化学品セグメントは主にエンジニアリングプラスチック(エンブラ)と EL 薬品の固定費等が 3Q に集中し、減益となった。特殊機能材セグメントは BT 材料の販売の伸びが弱く、加えて先ほどご説明した品質対応の強化によるコスト増もあり減益となった。以上により、ある程度予想はしていたが 2Q から 3Q にかけては営業利益が減少した。

**Q5:** 3Q 実績は、社内計画に対しては概ねインラインという認識か。また 3Q から 4Q にかけても、大きな段差として見ておくべき定修要因などはあるか。

**A5:** 3Qの着地について、コスト関連は概ね想定通りだが、販売については半導体関連が弱かった。3Qから4Qにかけては、多少の減益を見ている。全体説明でも触れたが芳香族化学品セグメントで、水島工場の定修があること、また機能化学品セグメントのポリカーボネートについても固定費の増加があることは留意いただきたい。

**Q6:** BT材料の顧客品質対応についてはどういった背景で生じているのか。また既に要因等は掴めているとのことだが、3Qから4Qにかけての影響について教えてほしい。

**A6:** 相手のあることなので詳細は控えるが、既に現象・要因は掴めており、顧客の工程まで一部入ってしまったものがあり、回収したため一定の損害補償損失を計上した。対策も既に開始しており、主に検査工程の負荷を上げているためコストがかかっている。特殊機能材セグメントで前回予想から下振れしている金額のうち、約3分の1程度はこの要因によるコスト増である。顧客からの受注は問題なく継続しており、品質対応によるコスト増も徐々に解消していくと見ている。また、需要は既に底打ちしていることから、来期は販売増が期待でき、販売増でコスト増を吸収していく。

**Q7:** 3Qから4Qにかけて電子材料(BT材料/OPE®)の売上高は増加を見込んでおり、その中でOPE®はQoQで横ばいと説明だったが、BT材料はQoQで売上高が増加する背景としては、全体的な需要の回復がもう既に見えているという理解で良いか。

**A7:** ご認識のとおり。OPE®は、QoQでは横ばいで推移すると見ている。BT材料については4Qにかけて回復の手応えを感じており、増収増益で見ている。但し、11月予想ほどの強さはないので、今回の予想ではそこからは若干下振れを見込んでいる。

**Q8:** BT材料の検査工程などの負荷が上がったとしても、アウトプットを増やすことが出来た場合、今回予想の数字は達成できるという理解で良いか。

**A8:** そう捉えて頂いて良い。汎用向けは回復してきており、当社の主力である低熱膨張材はメモリの回復が見えてきていることやスマートフォンの春モデルに向けた韓国・中国での作り込み需要などが期待できる。さらに、FC-BGA向けはノートパソコン等の需要が堅調に来ており、販売を増やしていく方向。AiP向け高周波材は厳しい状況が続いているが、今申し上げた3つの分野が吸収し、トータルでは伸長を見込んでいる。

**Q9:** エンプラと光学材料の業績に関して、2Qから3Qの変化と4Qの見通しを教えてください。光学材料は、スマホのカメラ用途等が堅調であったとのことだが、過去3Qがピークという説明があったが、3Qは北米系が減少した一方で中華系が比較的堅調に推移したというのが業界の動向かと思う。御社の動向はどうか。エンプラについては、自動車向け等の製品を製造している上海拠点の状況も含めて教えてください。

**A9:** エンプラと光学は、2Qから3Qにかけて減益。光学は固定費が増加したにもかかわらず減益幅は小さかった。減益の大きな要因は、タイ拠点の定修等があったポリカーボネート(PC)事業。4Qの見通しについて、光学は、春節による先行発注等により1月の販売はやや落ち込んだものの、来春の新モデル向けなどから2月以降堅調に推移し、3Q並みの販売数量を見込んでいる。来期についても、高シェアを維持し堅調に推移するだろう。PCについては、上海拠点が販売とコストダウンのアクションが非常によくかみ合い、増益基調に入っている。4Qは3Qが好調であっただけに販売の減少や低価格の影響も考慮すると3Q並みもしくは減益を見込む。タイ拠点については、3Qに行った定修の反動や販売数量の増加により増益を見込んでいる。一方、シートフィルム事業については、コストダウンは予定通り進んでいるものの、販売のほうは前回予想から改善しておらず、来期以降も課題と認識している。ポリアセタール(POM)について、3QはOA向けが堅調に推移し前回予想を上回った。4Qは3Qから大きな変化はない見込み。

**Q10:** 無機化学品について、今中計では、過去の投資や現在進めている投資を中計期間中にしっかり回収していくことがその柱の1つになっていたと思う。今期、明らかに事業の進捗としては遅れが見られるという状況で、この状況をどのように打開していくのか。

**A10:** ご指摘のとおり、中計で掲げた計数目標の中で、EL薬品が増益牽引の筆頭だということは十分認識している一方、各プロジェクトの進捗に遅れが生じていることも否めないところ。顧客のFabの新增設も総

じて遅れているが、当社の中計目標はそれら顧客の立ち上げに合わせて作成した面が強い中、販売の伸びをどこで補っていくかが重要と考えている。国内の新設半導体工場向けの拡販、台湾の先端半導体工場へのワークなど、販売ポートフォリオや価格戦略も見直しながら、目標達成を目指していきたい。

**Q11:** トランプ関税に備えて最先端製品だけではなく冷蔵庫部品等のレガシー製品を含めて出荷が前倒しになり、アメリカの製造業の PMI が上昇しているようだが、影響を受けている事業があれば教えてほしい。

**A11:** 中国国内の荷動きが活発であるとの一部の情報は得ているが、特定の製品に対して影響があるという実感は現時点ではない。

**Q12:** 中国では補助金により、液晶テレビや EV、スマートフォン等が下支えされているようだが、今期の業績の押し上げ要因になっているのか、来期に更にプラスアルファが期待できるのか教えてほしい。また、その他に中国での補助金により販売が好調な製品があれば教えて欲しい。

**A12:** 中国の販売店からの定期報告では一部そのような事例も上がっているが、当社の業績に対して大きなプラスになっている、あるいは業績の不連続が起きている、というようなところまでは実感できていない。

**Q13:** 中国で AI スマホが流行することにより、チップサイズが大きくなる可能性はあるか。一般的に NPU が搭載されるとチップサイズが 1.2 倍ぐらいになり、BT 材料等にプラスの恩恵があるのではないかと思っていたが、現時点で具体的にそのような動きはないか。

**A13:** 影響は直接・間接、両方あると思うが、現時点で具体的に定量感を持ってお話しできるような動きはない。AI 搭載スマホやパソコン等が消費者の買い替え需要を喚起するならば、モバイル関係に強みを持つ BT 材料等にも恩恵はあるだろう。

**Q14:** 光学樹脂ポリマーの状況について、3Q のみで見るとどうだったか。中国の補助金の影響等により在庫が貯まっているようなことはないか。

**A14:** スマートフォンの高画素化・高機能化の継続、新興国を中心にローエンドやミドルエンドでも当社材がデファクトを取りつつあること、ノートパソコンや監視カメラなど用途の拡大などから、光学樹脂ポリマーについては前回予想より上振れた。

**Q15:** 光学樹脂ポリマーは、センサー向け用途等で目立った動きはあるか

**A15:** 現状は大きな動きはないが、もちろん車載向けなど従来からワークを継続しており、今後ご説明ができる機会があると思う。

**Q16:** OPE®は、GPU に加えて ASIC が伸びているということだが、今後のトレンドをどう見ているか。また、まだ先になるかもしれないが光電融合分野で御社のパッケージ関連が期待できるのではと考えているがいかがか。

**A16:** メインの用途はまだマザーボードであるが、ASIC やスイッチなど分散が図られてきていることは、非常に好ましい。また光電融合については、OPE®のみならず、BT 材料でも狙っていくため、日々新しい材料の開発に取り組んでいる。長い目で見て期待してほしい。

以上